

## 豆とばしにおける豆の飛距離に影響を与える口腔機能の検討 第2報 若年男性の場合

著者	東 麻夢可, 西村 瑠美, 三分一 恵里, ? 清華, 金久 弥生, 原 久美子
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	12
ページ	26-26
発行年	2018-10-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1492/00001009/">http://id.nii.ac.jp/1492/00001009/</a>

4-P-13

## 豆とばしにおける豆の飛距離に影響を与える口腔機能の検討 第 2 報 若年男性の場合

東 麻夢可<sup>1)</sup>  
西村瑠美<sup>2)</sup> 三分一恵里<sup>3) 4)</sup> 濱 清華<sup>1)</sup> 金久弥生<sup>1) 4)</sup> 原 久美子<sup>1)</sup>

豆とばしは、様々な口腔機能の協調動作により成り立っている。我々はこのことに着目し、豆とばしが、高齢者に対しての口腔機能評価を行う場合、測定機器が不要で簡便なスクリーニングとして応用できる可能性について報告を行った。しかしこれは健常高齢者のみのデータであるため、他の年代を対象として再現性と妥当性の検討が必要である。そこで我々は、若年者も高齢者と同様の傾向を示すという仮説のもと、平成 28 年度に若年者を対象として研究を行い、第 6 回神戸常盤学術フォーラムでは若年女性のみでの報告を行った。引き続き平成 29 年度は、若年男性のデータを収集し、若年男性の豆の飛距離に影響を与える口腔機能についての検討を行った。対象は、本学の学生 75 名（男性）で、気管支喘息の既往歴のある者を除いた 64 名（平均年齢 20.3±1.3 歳）の分析を行った。方法は、豆の飛距離の測定、口腔機能の評価、口腔内診査、聞き取り調査を行い、豆の飛距離と各測定項目についての比較検討および高齢者の傾向と検討した。統計的処理は、統計解析ソフト Statcel4 を用い、倫理的配慮として事前に参加者に同意を得、分析はデータを匿名化処理して行った。その結果、豆の飛距離と「最大呼気流速」との間に有意な相関が見られた。これは高齢男性と同様の結果（平成 25～26 年調査）であったことから、豆の飛距離に影響を与える口腔機能は、若年男性と高齢男性において、同様な傾向にあることが示された。

---

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科

2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門口腔発達機能学

3) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門公衆口腔保健学

4) 明海大学保健医療学部口腔保健学科設置準備室